

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-41204

(43) 公開日 平成11年(1999) 2月12日

(51) Int.Cl.<sup>9</sup>

識別記号

F I

H 0 4 J 13/04

H 0 4 J 13/00

G

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平10-114246

(22) 出願日 平成10年(1998) 4月9日

(31) 優先権主張番号 1997P13078

(32) 優先日 1997年4月9日

(33) 優先権主張国 韓国 (KR)

(31) 優先権主張番号 1997P77015

(32) 優先日 1997年12月27日

(33) 優先権主張国 韓国 (KR)

(71) 出願人 396017419

大宇通信株式会社

大韓民国仁川広域市西区佳佐洞531-1

(72) 発明者 ユン サン ボ

大韓民国京畿道ソナム市ブンダン区イメ  
洞140 プンリムアパート 516-1702

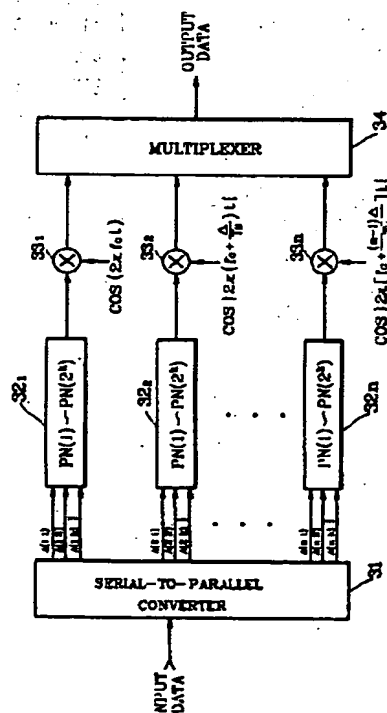
(74) 代理人 弁理士 斎藤 栄一

(54) 【発明の名称】 周波数多重方式PC-CDMAシステム

(57) 【要約】

【課題】 多数のビットを所定のPNコードに対応させデータ送受信を施すようになったPC-CDMAシステムにおいて、伝送するPNコードをそれぞれ相互直交性を有する周波数で多重化処理することによりシステムの効率を向上させるようになった周波数多重方式PC-CDMAシステムを提供する。

【解決手段】 送信パートにおいては多数のPNコード出力手段32<sub>1</sub>～32<sub>n</sub>から出力されるそれぞれのPNコードを相互直交性を有する周波数信号に変調するミキサ手段を備えて構成され、受信パートにおいては受信される信号について前記送信側でミキシングされた周波数信号と同一な周波数信号をミキシングする多数のミキサ手段33<sub>1</sub>～33<sub>n</sub>を備えて構成される。これにより、ミキサ手段33、41を介して送信側のPNコード出力手段32<sub>1</sub>～32<sub>n</sub>と受信側の相関器42<sub>1</sub>～42<sub>n</sub>及びデータ判定部43<sub>1</sub>～43<sub>n</sub>が独立して相互対応されることにより、PC-CDMAシステムに使われるPNコードの数を大幅に減らせる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 多数のデータビットをそのデータ値に應ずるPNコードに変換する多数のPNコード出力手段を備えて送信するデータを所定のPNコードにスプレージングし、受信される信号からPNコードを判別して本来のデータに復元するPC-CDMAシステムにおいて、

送信パートにおいては前記多数のPNコード出力手段から出力されるそれぞれのPNコードを相互直交性を有する周波数信号に変調する多数のミキサ手段を備えて構成され、

受信パートにおいては受信される信号について前記送信側でミキシングされた周波数信号と同一な周波数信号をミキシングする多数のミキサ手段を備え、該ミキサ手段を通して出力される信号からPNコードを判別し、前記それぞれのPNコード出力手段は他のPNコード出力手段について独立的にPNコードを生成して出力することを特徴とする周波数多重方式PC-CDMAシステム。

【請求項2】 多数のデータビットをそのデータ値に應ずるPNコードに変換する多数のPNコード出力手段を備えて送信するデータを所定のPNコードにスプレージングし、受信される信号からPNコードを判別して本来のデータに復元するPC-CDMAシステムにおいて、

送信パートにおいては前記多数のPNコード出力手段から出力されるそれぞれのPNコードを相互直交性を有する周波数信号に変調する多数のミキサ手段を備えて構成され、

受信パートにおいては受信される信号について前記送信側でミキシングされた周波数信号と同一な周波数信号をミキシングする多数のミキサ手段を備え、該ミキサ手段を通して出力される信号からPNコードを判別し、前記多数のPNコード出力手段は入力されるデータ値が同一な場合は同一なPNコードを出力することを特徴とする周波数多重方式PC-CDMAシステム。

【請求項3】 多数のデータビットをそのデータ値に應ずるPNコードに変換し、前記変換されたPNコードを相互直交性を有する周波数信号でミキシングして伝送する送信装置と、受信される信号について再び相互直交性を有する周波数信号をミキシングし、この際得られたPNコードを判別して本来のデータを復元する受信装置とを備えて構成された周波数多重方式PC-CDMAシステムにおいて、

前記受信装置は前記周波数信号のミキシングを通して得られたPNコードデータを貯蔵する貯蔵手段と、

前記貯蔵手段に貯蔵されるPNコードデータをそのコード単位に順次読み出して出力するマルチプレクサと、前記マルチプレクサから出力されるPNコードに相関されたレベル信号を出力する相関器と、

前記相関器から出力されるレベル信号に基づき送信データを判定するデータ判定手段とを具備してなることを特徴とする周波数多重方式PC-CDMAシステム。

【請求項4】 多数のデータビットをそのデータ値に應ずるPNコードに変換し、前記変換されたPNコードを相互直交性を有する周波数信号でミキシングして伝送する送信装置と、受信される信号について再び相互直交性を有する周波数信号をミキシングし、この際得られたPNコードを判別して本来のデータを復元する受信装置とを備えて構成された周波数多重方式PC-CDMAシステムにおいて、

前記受信装置は前記周波数信号のミキシングを通して得られたPNコードデータをそれぞれ貯蔵する貯蔵手段と、

前記貯蔵手段の所定数に應ずるよう結合され、その対応する貯蔵手段に貯蔵されるPNコードデータをそのコード単位に順次読み出して出力する少なくとも一つ以上のマルチプレクサと、

前記各マルチプレクサの出力に結合され該当マルチプレクサから出力されるPNコードに相関されたレベル信号を出力する少なくとも一つ以上の相関器と、

前記各相関器の出力に結合され該当相関器から出力されるレベル信号に基づき送信データを判定する少なくとも一つ以上のデータ判定手段とを備えて構成されることを特徴とする周波数多重方式PC-CDMAシステム。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は多数のビットを所定のPNコード(Pseudo Number Code)に対応させデータ送受信をするPC-CDMA (Parallel Combinatory CDM A)システムに係り、特に多数のビットに対応するPNコードをそれぞれ相互直交性を有する周波数に多重化処理することによりシステムの効率を向上せうようにした周波数多重方式PC-CDMAシステムに関する。

## 【0002】

【従来の技術】最近、各種の通信機器が無線化及びデジタル化されることにつれ、通信方式においても従来の時分割多重アクセス(TDMA)及び周波数分割多重アクセス方式(FDMA)から次第にコード分割多重アクセス方式(CDMA)に変わりつつあり、このコード分割多重アクセス方式の場合もDC-CDMA(Direct Sequence CDM A)やPC-CDMAのような多様な種類のものが開発され商用化されている。特に、前記PC-CDMAの場合はシステムの複雑度を最小化しつつ大量の情報を高速で伝送できるという長所のため、例えばセルラシステム(cellular system)のような移動通信システムの通信方式として注目されている。

【0003】図1は前記PC-CDMAシステムの概要を説明するためのブロック構成図であって、図1(A)は送信パート、図1(B)は受信パートを示す。また、

図1は例えば128ビットのデータをPC-CDMA方式で送受信する場合を示す。

【0004】図1(A)において参照番号11は入力される一連の直列データを並列データに変換して出力する直列/並列変換部であり、12(12<sub>1</sub>~12<sub>32</sub>)はこの直列/並列変換部11から出力されるデータの所定ビット(本例では4ビット)を入力してそのビット値に対応するPNコードを出力するPNコード出力部、13はこのPNコード出力部12から出力される各PNコードを合成して出力するマルチプレクサである。そして、前記マルチプレクサ13から出力される合成されたPNコードは、例えばPSK(Phase Shift Keying)やQPSK(Quadrature PSK)方式でデジタル変調され公衆波伝送網を介して伝送される。

【0005】一方、図1(B)において21(21<sub>1</sub>~21<sub>32</sub>)は送信パートから受信され復調されたデータのPNコードに相関されたレベル信号を出力する相関器(correlator)である。図2は図1(B)において相関器21<sub>1</sub>の構成に例えて示したもので、これは受信データについてそれぞれ固有のPNコード[PN(1)、PN(2)、...、PN(16)]を乗算する多数の乗算器211<sub>1</sub>~211<sub>16</sub>と、該乗算器211から出力される信号をそれぞれ積分する多数の積分回路212<sub>1</sub>~212<sub>16</sub>を含めて構成されている。

【0006】そして、図1(B)において参照番号22(22<sub>1</sub>~22<sub>32</sub>)は前記相関器21から入力される信号のレベルに基づき図1(A)の送信パートから伝送されたPNコードを判定した後、その判定されたPNコードに必ず4ビットのデータを出力するデータ判定部、23はこのデータ判定部22から印加される並列データを直列データに変換して出力する並列/直列変換部である。

【0007】前述した構成において、まず送信パートにおいてPNコード出力部12は入力される4ビットのデータ値に必ずPNコードを出力し、この際各PNコード出力部12から出力される各PNコードは、マルチプレクサ13でコード合成された後デジタル変調され送り出される。ここで、前記PNコード出力部12は入力される4ビットのデータ値により相異なるPNデータを出力し、かつ各PNコード出力部12から出力されるPNコードも相異なることと設定されるので、送信パートでは出力されるデータが全て直交性を有することになる。

【0008】また、受信パートでは受信され復調されたデータについて各相関器21で送信側から送信する可能性のある全てのPNコード[PN(1)、PN(2)、...、PN(512)]を乗算してから該当結果データを積分して出力し、データ判定部22では前記相関器21から出力される512個のレベル信号に基づき現在受信されたデータのPNコードを判定して、その判定さ

れたPNコードに必ず128ビット(各4ビット)のデータを復元出力することになる。

【0009】従って、前述した構成においては、例えば128ビットのデータを同時に送受信できるようになることによりデータの送受信を高速で施せることになる。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】しかし、前述したPC-CDMAシステムでは次のような問題点がある。すなわち、従来のPC-CDMAシステムにおいては4ビットのデータを伝送するに16種(2<sup>4</sup>)のPNコードが必要になるので、図1に示したように、128ビットのデータを伝送するにおいては総512(16×32)種のPNコードを必要とし、またこのPNコードの数を減らすため、正(+)のPNコードと負(-)のPNコードを使用しても256種のPNコードが必要になる。従って、多数のPNコードを生成するためにPNコード発生器の構造が複雑化されるところ、これはPC-CDMA方式が適用されるセルラシステムのサイズを縮めるに大きな制約要素となる。

【0011】また、前述したPC-CDMAシステムにおいては使用されるPNコードが多数なので、受信側におけるデータの復元性が極めて低下される。すなわち、一般にCDMA方式においてデータの復元性は送信される信号のエネルギーをE<sub>b</sub>とし、ノイズをN<sub>0</sub>とする際、E<sub>b</sub>/N<sub>0</sub>と表記し、この際送信側から送信するPNコードのうち自分に必要なPNコードを除いた他のPNコードはノイズ信号として作用することになる。従って、前記PC-CDMAシステムを用いて、例えばセルラシステムを構成する場合において同時に多くのユーザーがセルラホンをを用いて通話を施す場合は、他のセルラホンについて送受信されるPNコードがノイズとして作用して全体的なノイズレベルが大幅に増加することにより全体のセルラホンのユーザーが通話を施せない問題点が発生する。

【0012】また、前述したPC-CDMAシステムにおいては送信パートに備えられるPNコード出力部12の数に対応する数ほど受信パートで相関器21とデータ判定部22が必要になるが、PC-CDMAシステムが通常携帯用通信システムに使用されることに鑑みる際、これは携帯用通信端末機器のサイズを縮小するに大きな障害となる。

【0013】本発明は前述した問題点を解決するために案出されたもので、PC-CDMAシステムに使われるPNコードの数を大幅に減らせるようになった周波数多重化方式PC-CDMAシステムを提供するところにその目的がある。

【0014】また、本発明は既存のPC-CDMAシステムに比べてデータをさらに高速で送受信できるようになった周波数多重化方式PC-CDMAを提供するところに他の目的がある。

【0015】また、本発明の受信パートで必要となる相関器とデータ判定部の個数を大幅に減らせるようになったPC-CDMAシステムを提供するところにさらに他の目的がある。

【0016】

【課題を解決するための手段】前述した目的を実現するため、本発明の周波数多重化方式PC-CDMAシステムは、多数のデータビットをそのデータ値に応ずるPNコードに変換する多数のPNコード出力手段を備えて送信するデータを所定のPNコードにスプレディングし、受信される信号からPNコードを判別して本来のデータに復元するPC-CDMAシステムにおいて、送信パートにおいては前記多数のPNコード出力手段から出力されるそれぞれのPNコードを相互直交性を有する周波数信号に変調するミキサ手段を備えて構成され、受信パートにおいては受信される信号について前記送信側でミクシングされた周波数信号と同一な周波数信号をミクシングする多数のミキサ手段を備え、該ミキサ手段を通して出力される信号からPNコードを判別し、前記それぞれのPNコード出力手段は他のPNコード出力手段について独立的にPNコードを生成して出力することを特徴とする。

【0017】また、本発明の周波数多重方式PC-CDMAシステムは、多数のデータビットをそのデータ値に応ずるPNコードに変換し、前記変換されたPNコードを相互直交性を有する周波数信号でミクシングして伝送する送信装置と、受信される信号について再び相互直交性を有する周波数信号をミクシングし、この際得られたPNコードを判別して本来のデータを復元する受信装置とを備えて構成された周波数多重方式PC-CDMAシステムにおいて、前記受信装置は前記周波数信号のミクシングを通して得られたPNコードデータを貯蔵する多数の貯蔵手段と、前記貯蔵手段に貯蔵されるPNコードデータをそのコード単位に順次読み出して出力するマルチプレクサと、前記マルチプレクサから出力されるPNコードに相関されたレベル信号を出力する相関器と、前記相関器から出力されるレベル信号に基づき送信データを判定するデータ判定手段とを備えて構成されることを特徴とする。

【0018】また、本発明の周波数多重方式PC-CDMAシステムは、多数のデータビットをそのデータ値に応ずるPNコードに変換し、前記変換されたPNコードを相互直交性を有する周波数信号でミクシングして伝送する送信装置と、受信される信号について再び相互直交性を有する周波数信号をミクシングし、この際得られたPNコードを判別して本来のデータを復元する受信装置とを備えて構成された周波数多重方式PC-CDMAシステムにおいて、前記受信装置は前記周波数信号のミクシングを通して得られたPNコードデータを貯蔵する多数の貯蔵手段と、前記貯蔵手段の所定数に応ずるよう結

合され、その対応する貯蔵手段に貯蔵されるPNコードデータをそのコード単位に順次読み出して出力する少なくとも一つ以上のマルチプレクサと、前記各マルチプレクサの出力に結合され該当マルチプレクサから出力されるPNコードに相関されたレベル信号を出力する少なくとも一つ以上の相関器と、前記各相関器の出力に結合され該当相関器から出力されるレベル信号に基づき送信データを判定する少なくとも一つ以上のデータ判定手段とを備えて構成されることを特徴とする。

【0019】前述した構成の本発明によれば、各PNコード出力手段から出力されるPNコードを相互直交性を有する周波数信号に変調し、受信側でこの周波数信号と同一な周波数信号を再びミクシングすることにより、前記送信側のPNコード出力手段と受信側のPNコード判別手段を一对一の対応関係に設定する。

【0020】従って、前記PNコード出力手段で必要となるPNコードの数を大幅に減らせるようになることによりPNコード発生器の構成を大幅に簡素化でき、また従来の方式と同数のPNコードを使用する場合は並列に伝送するデータの数を大幅に増やすことができるので、従来に比べてデータ伝送を高速で施せる。

【0021】また、本発明によれば、送信側から受信された各PNコードデータをマルチプレクサを介して順次に相関器に入力してデータ復元を施すので、従来とは異なり少数の相関器とデータ判定手段を通して受信データを復元できるようになる。従って、相関器とデータ判定手段の数を大幅に減らせることにより、受信装置の構成が簡単化されることは勿論、その製造コストを大幅に節減できる。

【0022】また、本発明では相関器とデータ判定手段の数が大幅に減って該当回路部で消耗される消費電力を大幅に省けられるので、前記受信装置が採用される通信端末機器の使用時間を大幅に延ばせる。そして、前記受信装置はその装置構成が簡単化され装置のサイズを縮められるので、通信用端末機器のサイズを縮小させうる。

【0023】

【発明の実施の形態】以下、添付した図面に基づき本発明の望ましい実施の形態を説明する。図3は本発明の一実施の形態による周波数多重方式PC-CDMAシステムを示したブロック構成図であって、図3は送信パート、図4は受信パートを示す。また、本実施の形態においてはnビットのデータを並列に伝送しつつkビットの単位にPNコードをマッピング処理する場合に例えて説明する。

【0024】図3において、参照番号31は入力されるnビットの直列データを並列データに変換して出力する直列/並列変換部であり、32(32<sub>1</sub>~32<sub>n</sub>)はこの直列/並列変換部31から出力されるデータをそれぞれkビット単位に入力して、そのビット値に対応するPNコードを出力するPNコード出力部である。

【0025】また、ここで前記PNコード出力部32<sub>1</sub>～32<sub>n</sub>は入力されるデータがkビットとする際2<sup>k</sup>個のPNコードを出力するが、この際各PNコード出力部32<sub>1</sub>～32<sub>n</sub>は入力されるデータ値が同一な場合は全て同一なPNコードがマッピングされ出力されるように構成される。すなわち、例えばPNコード出力部32<sub>1</sub>とPNコード出力部32<sub>n</sub>にそれぞれ同一なデータ値を有するデータが入力される場合は、PNコード出力部3

2<sub>1</sub>、32<sub>n</sub>から出力されるPNコードは同一なものと設定される。

【0026】また、参照番号33(33<sub>1</sub>～33<sub>n</sub>)は前記PNコード出力部32から出力されるそれぞれのPNコードについて相互直交性を有する周波数、すなわち、

【0027】

【数1】

$$\cos(2\pi f_0 t), \cos\left\{2\pi\left(f_0 + \frac{\Delta}{T_0}\right)t\right\}, \dots,$$

【0028】

【数2】

$$\cos\left\{2\pi\left[f_0 + \frac{(n-1)\Delta}{T_0}\right]t\right\}$$

をミクシングするミキサであり、34はこのミキサ33から出力される各周波数信号を合成して出力する周波数合成部である。

【0029】そして、前記周波数合成部13から出力される周波数信号は、例えばPSKやQPSK方式でディジタル変調され公衆波伝送網を通して伝送される。一方、図4において参照番号41(41<sub>1</sub>～41<sub>n</sub>)は受信され復調された周波数信号について前記送信パートでミクシングしたそれぞれの周波数信号と同一な周波数信号、すなわち、

【0030】

【数1】

【0031】

【数2】をそれぞれミクシングするミキサであり、42(42<sub>1</sub>～42<sub>n</sub>)はこのミキサ41から入力される各周波数信号についてそれぞれ所定のPNコード[PN(1)～PN(2<sup>k</sup>)]を乗算してから、その結果値を積分することにより入力されるPNコードに相関された所定のレベル信号を出力する相関器であって、これは図1で説明した相関器21と実際に同一な構成よりなっている。

【0032】そして、図4において、参照番号43(43<sub>1</sub>～43<sub>n</sub>)は前記相関器42から入力される信号のレベルに基づき、図3の送信パートから伝送されたPNコードを判定してから、その判定されたPNコードに対応するkビットのデータを出力するデータ判定部、44はこのデータ判定部43から印加される並列データを直列データに変換して出力する並列/直列変換部である。

【0033】前述した構成において、送信パートにおいては、直列/並列変換部31から出力されるnビットのデータはそれぞれkビットの単位にPNコード出力部32に印加され、PNコード出力部32では入力されるデータ値に応ずるPNコードを出力する。そして、これら各PNコード出力部32を介して出力されるPNコードはそれぞれミキサ33を通して相互直交性を有する周波

数信号に変調され出力される。ここで、前記周波数変調のための多数の周波数信号、すなわち、

【0034】

【数1】

【0035】

【数2】は例えば、逆DFTアルゴリズム(Inverse Discrete Fourier Transform Algorithm)を用いてDSP(digital signal processor)を通して容易に実現できる。

【0036】一方、図4に示した受信パートにおいては、入力される受信データについてミキサ41を通して送信側でミクシングした周波数信号と同一な周波数信号をそれぞれ再びミクシングすることになるが、この際前記周波数信号は前述したように相互直交性を有することになるので、各ミキサ41ではそのミキサ41でミクシングされる周波数信号と同一な周波数を有する周波数信号のみ入力される。

【0037】そして、前記ミキサ41から出力されるPNコードは相関器42とデータ判定部43を介して本来のデータに復元された後並列/直列変換部44を介して出力される。すなわち、前記実施の形態においては各PNコード出力部32から出力されるPNコードを相互直交性を有する周波数信号に変調し、受信側でこの周波数信号と同一な周波数信号を再びミクシングすることにより、前記送信側のPNコード出力部32と受信側の相関器42を一对一の対応関係に設定する。従って、前記PNコード出力部32で必要となるPNコードの数を大幅に減らせるので、PNコード発生器(図示せず)の構成を大幅に簡素化でき、かつ従来の方式と同数のPNコードを使用する場合は並列に伝送するデータの数を大幅に増やせるので、従来に比べてデータ伝送を高速で施せる。

【0038】また、前述した実施の形態においてはPNコード出力部32から入力されるデータのビット数がnの場合に2<sup>n</sup>個のPNコードを使用する場合について説明したが、この際使用されるPNコードを正(+)と負

(一)の二種にすれば、PNコードの数をさらに減らせる。そして、前記実施の形態においては各PNコード出力部32<sub>1</sub>～32<sub>n</sub>が入力されるデータが同一な場合は同一なPNコードを出力することと説明したが、本発明においては各PNコード出力部32<sub>1</sub>～32<sub>n</sub>が入力されるデータが同一な場合にも相異なるPNコードを出力するように構成できる。すなわち、本発明によれば、各PNコード出力部32<sub>1</sub>～32<sub>n</sub>の出力を相互直交性を有する周波数信号を通して差別化することにより、各PNコード出力部32<sub>1</sub>～32<sub>n</sub>を非相関的に、すなわち独立的に構成できる。

【0039】ところが、前述した発明において、ミキサ41から出力されるデータ、すなわちPNコードデータから本来のデータを復元するためには、各ミキサ41の出力について相関器42とデータ判定部43を結合させるのが必要なので、極めて多数の相関器42とデータ判定部が必要になる。そして、この多数の相関器42及びデータ判定部43は前記受信装置が備えられるシステム、例えば携帯用通信端末機器のサイズを縮小するに大きな障害要素となることは勿論、システムのコストアップを招く要因となる。特に、前記それぞれの相関器42とデータ判定部43が実際に同一な構成よりなることを考慮する際、これは極めて不合理なこととなる。

【0040】図5は本発明による周波数多重方式PC-CDMAシステムの受信装置の他の構成例を示したブロック構成図である。図5において、図3に示した送信装置から送信され復調された受信信号はミキサ51(51<sub>1</sub>～51<sub>n</sub>)の入力として結合される。そして、ミキサ51は入力される受信信号、すなわち受信周波数信号について図3の送信装置でミキサ33を通してミクシングされた周波数信号と同一な周波数信号、すなわち、

【0041】

【数1】

【0042】

【数2】をそれぞれミクシングする。前述した通り、前記ミキサ51を介してミクシングされる各周波数信号は相互直交性を有するので、前記ミキサ51から出力されるデータは図3においてミキサ33に入力されるデータ、すなわち各PNコード出力部32の出力データに対応する。そして、前記ミキサ51から出力されるデータはそれぞれバッファ52(52<sub>1</sub>～52<sub>n</sub>)の入力として結合され、バッファ52は入力されるデータ、すなわちPNコードデータを順次に貯蔵する。

【0043】一方、図5において参照番号53はマルチプレクサである。該マルチプレクサ53は前記バッファ52に貯蔵されているデータをPNコード単位に読み出して出力する。例えば、図3において、各PNコード出力部32から出力されるPNコードが64チップよりなされる場合、前記マルチプレクサ53はバッファ52から64チップ単位にデータを読み出して出力することに

なる。そして、この際前記バッファ52に対するアクセスは、例えばバッファ52<sub>1</sub>からバッファ52<sub>n</sub>への順に順次に施される。

【0044】次いで、前記マルチプレクサ53の出力は相関器54の入力として結合され、相関器54は入力されるデータ、すなわちPNコードデータについて所定のPNコードを乗算してから積分を施すことにより、入力されるPNコードに相関された所定のレベル信号を出力する。ここで、前記相関器54は図2に示した相関器21と実際に同様な方式で構成される。

【0045】すなわち、図6は前記相関器54の構成を示したブロック構成図であって、これは受信データについてそれぞれ固有のPNコード[PN(1)、PN(2)、・・・PN(2<sup>k</sup>)]を乗算する多数の乗算器541(541-1～541-2<sup>k</sup>)と、この乗算器541から出力されるそれぞれの信号を積分する積分回路542(542-1～542-2<sup>k</sup>)を含めて構成されている。ここで、前記乗算器541を通して乗算されるPNコード[PN(1)、PN(2)、・・・PN(2<sup>k</sup>)]は図3のPNコード出力部32でマッピングされ出力されるPNコードに應ずる。

【0046】一方、図5において参照番号55は前述した相関器54から出力される信号のレベルに基づき、図3の送信装置から伝送されたPNコードを判定してから、その判定されたPNコードに應ずる、例えばKビットのデータを出力するデータ判定部であり、56はこのデータ判定部55から印加される並列データを直列データに変換して出力する並列/直列変換部であって、これら前記データ判定部55と並列/直列変換部56は図4に示したことと実際に同様な構成よりなっている。

【0047】前述した構成において、受信信号が入力されればミキサ51は受信信号についてそれぞれ所定の周波数信号、すなわち

【0048】

【数1】

【0049】

【数2】をそれぞれミクシングする。したがって、前記各ミキサ51では、図3のPNコード出力部から出力されるPNコードデータが出力されバッファ52にそれぞれ入力される。

【0050】次いで、マルチプレクサ53は前記バッファ52に入力されたPNコードを順次に、すなわちバッファ52<sub>1</sub>からバッファ52<sub>n</sub>への順に読み出して相関器54に出力し、相関器54では、図6において説明した通り、入力されるPNコードデータについてそれぞれ所定のPNコード[PN(1)、PN(2)、・・・PN(2<sup>k</sup>)]を乗算してから、その結果データを積分して出力する。

【0051】周知の通り、通常のPNコードの場合はそれぞれのPNコード間に相互直交性があるので、入力さ

れるPNコードについて他のPNコードを乗算すれば、その結果値が理想的には‘0’と設定され、入力されるPNコードについて同一なPNコードを乗算すれば、その結果値が‘1’と設定される。従って、もし送信装置側から受信されたPNコードデータが例えばPN(1)の場合は、図6において前記PN(1)が乗算される乗算器541-1と結合される積分回路542-1からは所定レベル値が出力される一方、他の積分回路542-2〜542-2<sup>N</sup>からは‘0’レベルが出力される。

【0052】次いで、図5においてデータ判定部55は前記相関器54から入力されるレベル信号に基づき、現在送信装置から受信されたPNコードデータが何かを判定した後、その判定された結果に基づき当初PNコード出力部32側に入力されたデータをジマッピングして出力し、この出力データは並列/直列変換部66を通して本来のデータとして出力される。すなわち、前述した実施の形態においては多数のミキサ51を通して入力されたPNコードをバッファ52とマルチプレクサ53を介して順次に相関器54に入力してデータ復元を施すので、従来とは違って、単一の相関器54とデータ判定部55を介して受信データを復元できるようになる。したがって、相関器54とデータ判定部55の数を大幅に減らせることになるため、受信装置の構成が簡単化されることは勿論、その製造費用を大幅に節減できる。

【0053】また、前述した実施の形態においては相関器54とデータ判定部55の数が大幅に減るので、該当回路部で消耗される消費電力を大幅に省け、前記受信装置が通常移動通信用端末機器に採用されることを考慮する際、これはその通信端末機器の使用時間を大幅に延ばす効果を奏する。

【0054】また、前述した実施の形態の装置はその装置構成が簡単化され装置のサイズを縮められ、つまり通信用端末機器のサイズを縮小させる効果を奏する。

【0055】一方、図5に示した実施の形態においては、マルチプレクサ53が各バッファ52に貯蔵されるPNコードデータを順次に相関器54に入力すべきなので、前記マルチプレクサ53の高速動作が要求される。従って、送受信システムを設計するにおいて前記マルチプレクサ53の動作速度を考慮すべきなので、装置の設計が難しくなる問題が発生する場合もある。

【0056】図7は前述した事情に鑑みた本発明の他の実施の形態による周波数多重方式PC-CDMAシステムの受信装置を示す。図7においては受信信号が多数のミキサ61に入力され、ミキサ61は図3と同様、入力される受信信号について相互直交性を有する周波数信号をそれぞれミキシングすることになる。そして、これらミキサ61から出力される受信データ、すなわちPNコードデータはバッファ62に順次に貯蔵される。

【0057】また、前記バッファ62の出力はマルチプレクサ63の入力として結合されるが、この際前記マル

チプレクサ63は図5とは異なり、所定数のバッファ62に貯蔵されるPNコードデータが入力として印加される。そして、この際前記マルチプレクサ63に結合されるバッファ62の数は特定のことでなく、送受信システムの性能により決定される。

【0058】そして、前記各マルチプレクサ63の出力はそれぞれ相関器64の入力として結合され、相関器64の出力はデータ判定部65の出力として結合され、このデータ判定部65の出力が並列/直列変換部66を介して直列データとして出力される。勿論、この場合前記相関器64とデータ判定部65は図5におけるそれと実際に同様な構成を有する。

【0059】前述した構成においては、バッファ62の出力端に多数のマルチプレクサ63が結合される。したがって、マルチプレクサ63は全体のバッファではなく特定数のバッファ62に貯蔵されるデータのみ入力すれば良いので、前記マルチプレクサ63の数をNとする際、その動作速度は図5に示したマルチプレクサ53に比べて1/Nと設定できる。すなわち、前記実施の形態は送信装置から受信されるデータを多数のマルチプレクサ63と相関器64及びデータ判定部65を介して処理するので、図5に示した構成に比べて装置の複雑度は増加されるが、高速でデータを送受信するシステムに適宜に使用できる。

【0060】なお、本発明は前述した実施の形態に限らず、本発明の技術的な要旨を逸脱しない範囲内で多様に変形させ実施することもできる。

【0061】

【発明の効果】以上述べたように、本発明によれば、使用されるPNコードの数を大幅に減らせ、かつ既存のPC-CDMAシステムに比べてデータを一層高速で送受信できるようになった周波数多重方式PC-CDMAシステムを実現できる。また、本発明によれば、受信装置でデータ復元のために使用される相関器とデータ判定部の数を大幅に減らせるので、システムのサイズを大幅に縮小できることは勿論、システムの効率化及び低廉化が図れる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(A)及び(B)は一般のPC-CDMAシステムを示したブロック構成図である。

【図2】図1(B)において相関器21の具体的な構成を示した構成図である。

【図3】本発明の一実施の形態による周波数多重方式PC-CDMAシステムを示したブロック構成図である。

【図4】本発明の一実施の形態による周波数多重方式PC-CDMAシステムを示したブロック構成図である。

【図5】本発明による周波数多重方式PC-CDMAシステムの受信装置の他の構成例を示したブロック構成図である。

【図6】図5において相関器54の構成を示した構成図

である。

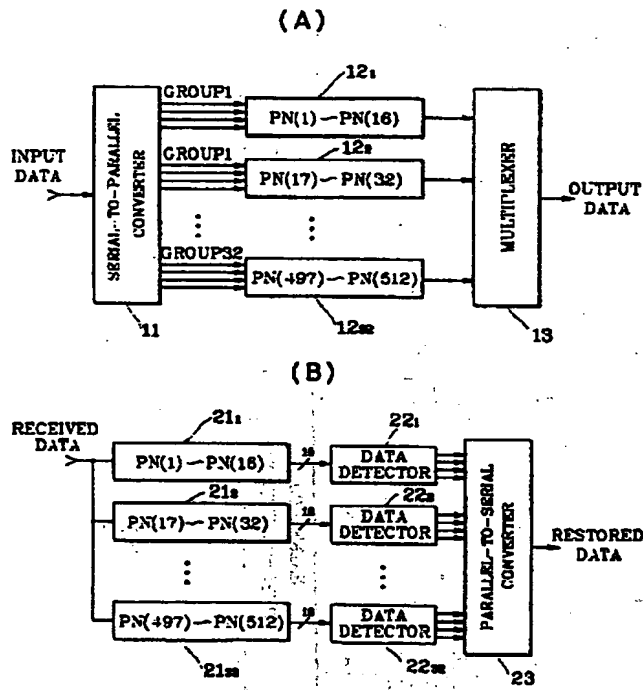
【図7】本発明による周波数多重方式PC-CDMAシステムの受信装置のさらに他の構成例を示したブロック構成図である。

【符号の説明】

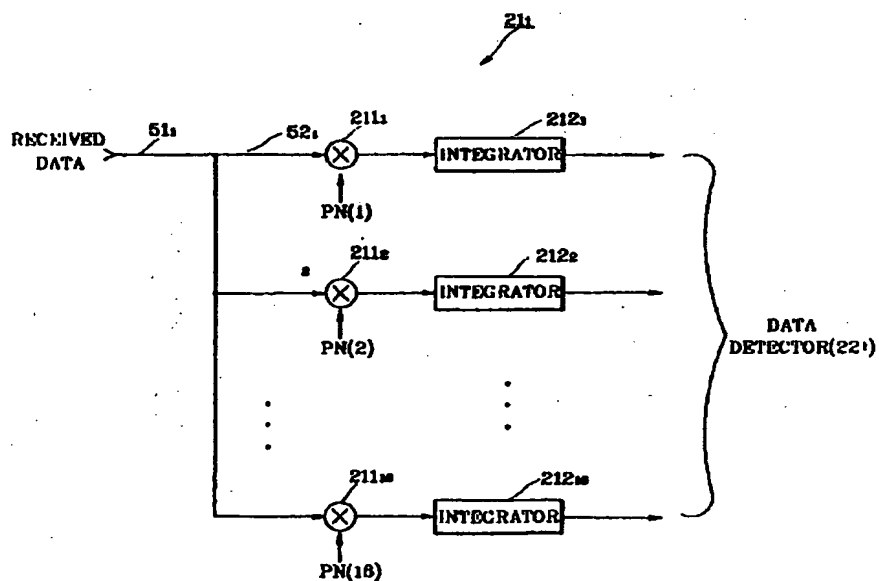
31 直列／並列変換部  
32 PNコード出力部

33、41、51、61 ミキサ  
34 周波数合成部  
42、54、64 相関器  
43、55、65 データ判定部  
44、56、66 並列／直列変換部  
52、62 バッファ  
53、63 マルチプレクサ

【図1】

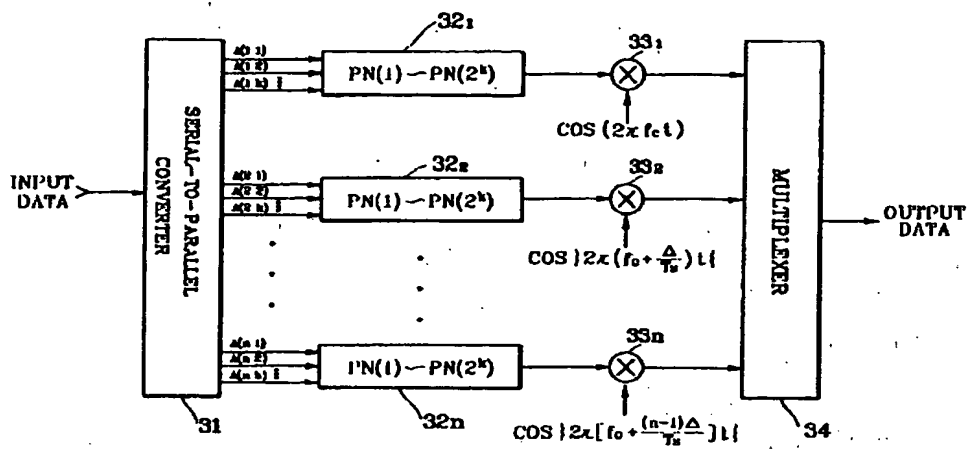


【図2】

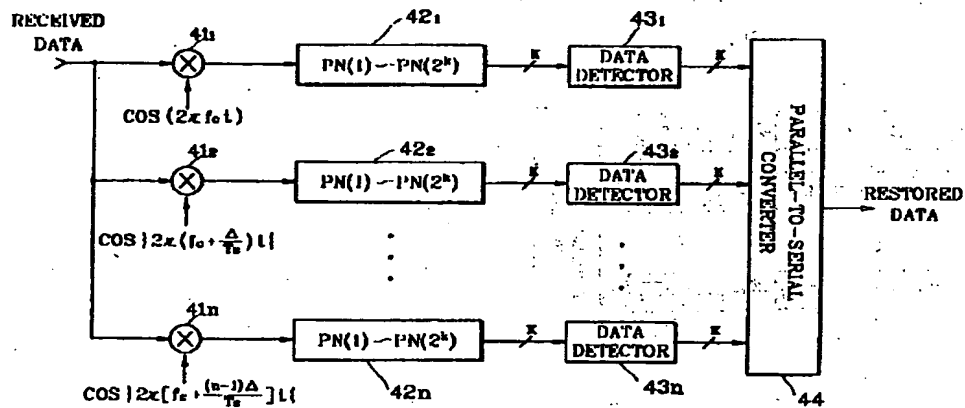




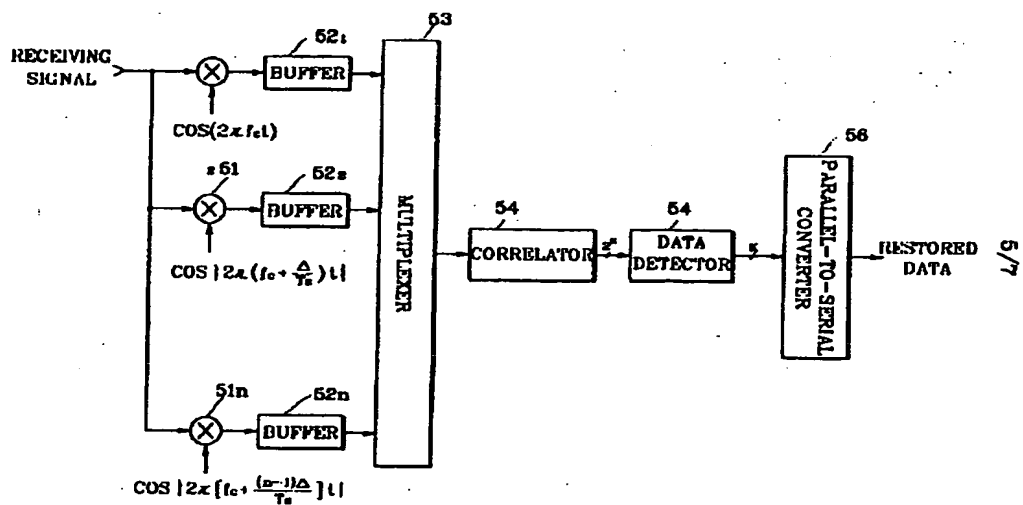
【図3】



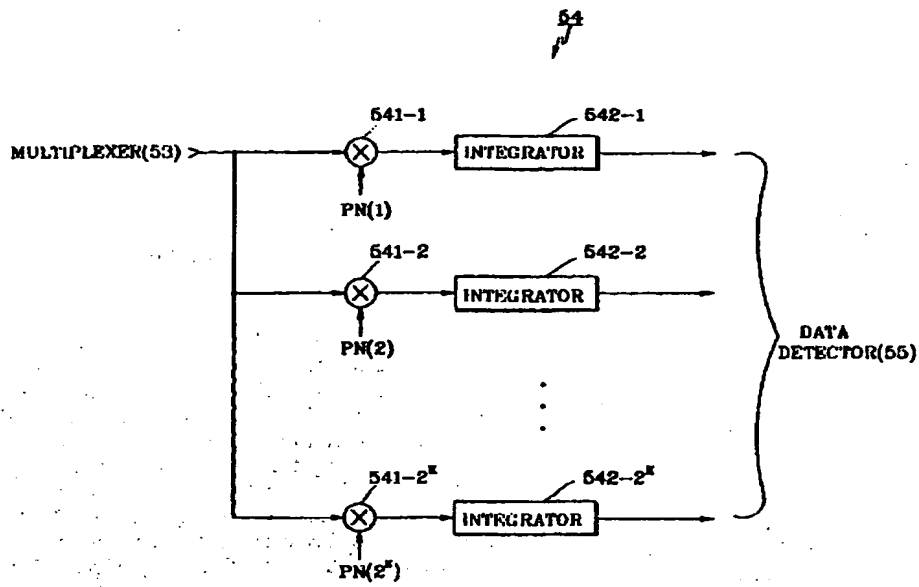
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

